

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域協力・連携を通じて、生徒一人ひとりの成長と自立を支援し、たくましく生きる人間を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識や人権意識を育み、社会的に自立・貢献できる品格ある人間を育てる。
- 3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀をしなやかに生きる生徒を育成する。

2 中期的目標

1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路保障のさらなる充実を図る

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。

ア 少人数授業、習熟度別授業などを積極的に取り入れ、きめ細かい指導体制を確立する。

イ 公開授業、研究授業、授業アット等を通じて、授業改善、授業力の向上に取り組む。

また、「学校経営推進費」を活用し導入したプロジェクター・アイパッド等 ICT 機器の効果的な活用法を研究する。

教員研修(経験豊かな教員の発表など)を通じて授業のコツ、ノウハウ等の伝達を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を平成 29 年度には 75%とする。

(2) 講習・補習体制をさらに充実させ、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 生徒一人ひとりの進路支援体制のさらなる充実、学習支援体制の充実を図る。

イ 行事の活性化に取り組む、学校生活に対する充実感を高め、学習面における側面からの補強を行う。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を平成 29 年度には 85%とする。

※生徒の進路満足度を平成 29 年度には 85%とする。

2 規範意識、人権意識を育み、社会的に自立できる人間の育成

(1) 生徒の肉体的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学年団体や学年・生指部の連携を強化し、指導・支援体制の充実を図る。

学年職員室を 1,2 年に設定し、学年団意識を高める。

イ 遅刻指導、挨拶や礼儀の指導を全教職員が継続して取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の満足度を平成 29 年度には 70%とする。

ウ 生徒会活動、学校行事、部活動等に積極的に係わる、たくましい生徒を育てる。

※生徒向け学校教育自己診断における行事満足度を平成 29 年度には 80%とする。

(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。

ア 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を平成 29 年度には 65%とする。

(3) 人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実

ア 情報ネット社会における人権侵害やいじめなどについて学び、人権感覚、実践力を高める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を平成 29 年度には 80%とする

3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、世界のさまざまな人々と繋がる力、コミュニケーション能力を育成する。

(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。

ア 「学校経営推進費」を活用し、 Moodle を使った e-ラーニングシステムを確立し、反転授業の実施等新しい学習スタイルの研究をする。ICT の活用などプレゼン能力を向上させる。

姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国々との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。

(2) 国際教育、ESD (持続発展教育) (ユネスコスクールの取組を含む) の充実・発展に取り組む

ア 国際部が中心となって校内における国際教育、ESD の企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。

・オーストラリアの姉妹校をはじめ、様々な国々の人々との交流を計画・実施する。大阪ユネスコスクール (ASNet) としての活動を、学校レベルで計画実践していく。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育 (ユネスコ活動を含む) に対する満足度を平成 29 年度には 90%とする。

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信

(1) 学校の組織的運営の確立、若手教員を中心とした人材育成、ICT 機器の活用等に積極的に取り組む。

(3) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(4) ホームページ・メルマガ等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を平成 29 年度 75%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(学習指導)</p> <p>・今年度は、「ICT を活用した授業」「アクティブラーニング」を柱に授業改善に取り組んだ。生徒の「ICT 活用満足度」が 80%に達したことは、その効果の表れだと思う。授業改善については、さらなる工夫が必要であり「わかる授業」を追求していきたい。</p> <p>(生徒指導)</p> <p>・本年度は 3 年および生徒会を中心に、行事のリニューアルに取り組んだ。その結果「学校行事」に対する生徒満足度が 80%w を越えた。さらに、行事の活性化」が生活面での規律向上にもつながり「遅刻総数」が 30%g 減少した。これを本校の伝統にしていきたい。</p> <p>・一方、「進路指導」に対する満足度が 74%(昨年度 80%)であった。この要因の精査と改善策の検討が喫緊の課題である。</p>	<p>(第 1 回) 6/19</p> <p>○学校経営計画について</p> <p>・昨年度協議会の意見を踏まえて改善をされたことが大変うれしかった。</p> <p>・一部の生徒だけでなく、すべての生徒の声をしっかり吸収していただきたい。</p> <p>(第 2 回) 11/27</p> <p>・コース制を導入してさらに進路の実績を示すことが学校の評価に繋がる。進路指導の充実を図られたい。</p> <p>・地域の行事に高校生が参画することで、非常に盛り上がる。今後も協力をお願いする。</p> <p>(第 3 回) 2/2</p> <p>・進路実現に関して、生徒たちを半ば無理にでも学習に向かわせる仕掛けを考えていただきたい。学習する集団を作り切磋琢磨できるような工夫をお願いする。保護者に対するていねいな情報提供もお願いする。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路指導体制のさらなる充実	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 講習・補習体制をさらに充実させ、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現を支援を行う。</p>	<p>ア 1年生数学の習熟度別授業や英語少人数授業の成果を見極め、分析・改善を図る。</p> <p>イ 授業アンケート(2回)を円滑に実施する。結果を受け、各自授業改善の方策を提出する。</p> <p>・各自が「よりわかりやすい授業」をめざし、授業改善に取り組む。校内で相互授業見学及び研究授業を計画的に実施する。</p> <p>・「校内ICT推進チーム」を立ち上げ、「学校経営推進費」により導入したICT機器の効果的活用について研修を実施し効果的な活用について情報交換等をする。</p> <p>ウ 講習・補習を学年ごとに計画実施する。</p> <p>・SHRの有効活用等生徒の学習習慣の確立を図る。</p> <p>エ 本校生徒のニーズを踏まえた教育課程のあり方について研究する。</p>	<p>アイ、授業アンケートの満足度を75%とする。(H26 73%)</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を80%以上とする。(H26 80%)</p>	<p>ア 1年生、2年生で数学・英語少人数授業実施。本年度より英語の少人数授業を普通科1, 2年生に導入。概ね生徒の満足度高い。(授業アンケート結果より)(○)</p> <p>・「授業アンケートの満足度」 75.7%(○)</p> <p>イ 11月中を「相互授業見学月間」として、教員が互いに授業を見学して学びあう月間とした。見学後はコメントを授業者へ提出しフィードバックをした。初任者による研究授業を4回実施した。(○)</p> <p>・「ICT活用満足度」 80%(◎)(H26 65%)</p> <p>ウ 進路指導・支援体制満足度 73%(△)</p> <p>エ H28入学生より、コース制を導入。特に「看護メディカルコース」を設置し、看護関係進学希望者に対応。(◎)</p>
2 規範意識、人権意識を育み、社会的に自立できる人間の育成	<p>(1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(3) 人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実</p>	<p>ア 学年団体制や学年・生指部の連携を強化する。引き続き、遅刻指導に重点的に取り組む。挨拶運動を教員・生徒が一体となって企画・実施する。</p> <p>イ 職員室や準備室の入室時、挨拶や礼儀の指導を全教職員で継続して取り組む。</p> <p>ウ 体育祭・文化祭等の行事の活性化、生徒会や部活動の活性化等を図る。</p> <p>エ 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。教育相談連絡会を毎月開催する。必要に応じて教員研修会を開く。</p> <p>オ 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど最新の状況について教職員、生徒がともに学び、人権感覚、実践力を高める。生徒、教職員向け研修を定期的に企画する。</p>	<p>ア、イ</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の満足度を60%以上とする。(H26 56%)</p> <p>・年間の遅刻者数を15%減少させる</p> <p>ウ 行事の満足度を80%とする。</p> <p>エ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を55%以上とする。(H26 53%)</p> <p>オ 生徒向け、教職員向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を80%以上とする。(H26 78%)</p>	<p>ア 遅刻総数は昨年度比30%減。服装、ピアス等の指導を徹底。(◎)</p> <p>・「生徒指導満足度」 56%(△)</p> <p>ウ 文化祭を長高祭と命名し大きくリニューアルした。土日の開催・学年をはずし縦割り7団を構成・団ごとに国をテーマに1年模擬店、2年中庭パフォーマンス3年演劇で統一。体育祭満足度 93% 文化祭満足度 85%(◎)</p> <p>エ 「教育相談・支援体制満足度」 54%(△)</p> <p>オ 5/28 1年生対象にスマホの活用法について学習。11/12 教職員対象情報に関する研修会実施。</p> <p>・「人権教育満足度」 75%(△)</p>
3 英語教育、国際教育のさらなる充実	<p>(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2) 国際教育(ユネスコスクールの取組を含む)、ESD(持続発展教育)の充実・発展に取り組む</p>	<p>ア 「学校経営推進費」により導入したICT機器の効果的な活用について研究する。引き続き英語指導法の研究に取り組む。</p> <p>イ 姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。特に、新たに実践的英語力の強化に特化した「セブ島英語集中研修」を計画実施する。</p> <p>ウ 英検の準2級以上の合格者数増を目指す。</p> <p>エ 国際部が中心となって校内における国際教育、ESDの企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。ユネスコスクールとしての取組を企画実施する。</p>	<p>ア 英語の相互授業見学・研究授業を適宜実施する。</p> <p>イ 海外語学研修、イングリッシュ・キャンプ等の参加者の満足度を85%以上とする。</p> <p>ウ 英検準2級合格者数 70名以上(H26 46名)</p> <p>英検2級合格者数 10名以上(H26 8名)</p> <p>エ 講演会・ワークショップ等国际教育、ESDに関する取組を定期的実施する。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断において、本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する満足度を90%とする。(H26 88%)</p>	<p>ア アイパッドおよびプロジェクターを活用した授業の相互見学および研究公開授業を実施。外部より見学者約20名。(◎)</p> <p>イ オーストラリアホームステイ・セブ島研修、イングリッシュキャンプ、スピーチコンテスト等すべて計画通り終了。満足度90%。(◎)</p> <p>・11/4 フィリピン・レトラン学院、11/30 オーストラリア・ダーウィン高校、12/17 中国から小中高生来校 1/20 デンマーク高校生との交流実施。学校全体の取組となった。満足度すべてほぼ100%(◎)</p> <p>ウ 本年度の状況</p> <p>英検準2級合格者数 44名(△)</p> <p>英検2級合格者数 18名(◎)</p> <p>エ ネパール・ウガンダへの支援活動実施。各学年ごとに国際理解教育を実施。(○)</p> <p>「国際教育に対する満足度」 87%(○)</p>
4 地域・保護者をつなぐ魅力ある学校づくりと情報発信	<p>(1) 学校の組織的運営の確立、若手教員を中心とした人材育成、</p> <p>(2) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>(3) 広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>ア 「校内ICT推進チーム」「校務処理システム担当グループ」を立ち上げ、校内のICT化を推進する。</p> <p>イ 首席が中心となって若手教員の実践的な研修を継続実施し、人材育成に努める。</p> <p>ウ 各教科、クラブ単位で地域の保育所、小中学校・福祉施設等地域との連携行事を積極的に企画実施する。</p> <p>エ 学校ホームページの充実、携帯メールの活用に努める。また学校ニューズレター等の発行など地域の広報活動をより積極的に行う。広報活動について、学校全体で取り組む体制を整える。</p>	<p>ア 学校教育自己診断における生徒の「ICT活用満足度」を75%とする。</p> <p>イ 「共育研修」を定期的実施する。生徒対応等で緊急に必要な知識理解についてはその都度研修会開催</p> <p>ウ 参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度を70%以上とする。</p> <p>エ 保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を70%以上とする。(H26 66%)</p>	<p>ア 「ICT活用満足度」80%(◎)</p> <p>・「ICT推進チーム」「校務処理グループ」とも機能し、校内ICT化が進んだ。(◎)</p> <p>イ 初任者対象の研修会「若葉の会」を定期的実施。課題のある生徒への対応等保健面からの研修も同時に実施。(○)</p> <p>ウ 地域の保育所と連携をした「保育実習」の実施、吹奏楽、フォークソング部の地域演奏会参加。河内長野市内幼小中高連携「イングリッシュフェスティバル」の実施。</p> <p>満足度 80%(○)</p> <p>エ ホームページの充実、携帯メールの送信回数増による広報活動の充実を図っている。</p> <p>「保護者の広報満足度」 71%(○)</p> <p>・学校ニューズレターの定期的作成。組織として広報活動に取り組む体制が整った。(◎)</p>

